

はじめの一歩カレンダー

白石えつ子の活動報告



障がいのある人もない人も共に生きる



9月東村山市議会報告 東村山・生活者ネットワーク 市議会議員 白石えつ子 一般質問より

障害福祉に関する 市単独事業再構築について

※東村山市単独障害福祉事業を時代の変化に合う制度に変えるため、平成24年から5年の長きにわたり、「障害福祉に関する市単独事業再構築検討委員会」で多様な障害の壁を越え、当事者が議論を重ねてきました。

その結果、障害者手当・難病患者福祉手当の支給月額が6000円に統一されました。心身障害者タクシー料金助成手当・心身障害者ガソリン費補助手当は、「障害者移動費用支援手当」に名称をかえ、移動手段等を問わず月額15000円の定額支給に変更されました。これまでの領収書を市役所まで持参する手間は省かれます。見直しにより、限られた財源の中で、

9/21 サンプルネで開催された自立訓練施設「くるる」の作品展
働きにくさを抱えた方々が、自立に向けた準備のために、制作した作品が並んでいました。自立を急がず、生活のリズムを作ることに丁寧に取り組まれている成果が現れていました。



9/26 ノウフクフォーラム2019
農福連携×SDGs
「地域再生と持続可能な共生社会の構築」
人とのつながりを作り、地域を活性化に導く可能性がある農福連携を、東村山から進めていきます。



9/28 「遠い親戚より近くの他人」コミュニティの緊急物資配達受取訓練を実施！
平時からの顔の見えるつながりを災害時に活かすため安否確認と物資配布を行いました。10名の方に、缶のお茶とダイオキシンを発生させないポリエチレンラップをお渡ししました。



受けられなくなった方もいます。新たな支給対象者はおよそ850人（8月31日現在）増えたことがわかりました。
答弁では、「提言書の中にある残された課題を今後も検討し、新たな障がい福祉制度改正が必要な時は、当事者と共に丁寧な議論が重要と認識している」との見解が示されました。

プラスチックごみゼロのまちへ

今やプラスチック削減は、地球規模での喫緊の課題です。日本のプラスチック使用量は世界第2位でありながら、削減の取り組みは、遅々として進んでいません。
プラごみ削減の先進事例として、農工大は「2030年までにプラスチック削減5Rキャンペーン

宣言」、小金井市庁舎では自動販売機のペットボトルを順次缶容器に代替。京都府亀岡市は、2030年度までに「かめおかプラごみゼロ」宣言で、河川環境を守る取り組みなどを行っています。

リサイクル率が高い東村山市でも、「プラごみゼロで魅力あるまちをめざすべき」との問いに、「公民連携でインクカートリッジの回収を始め、レジ袋削減にも取り組んできた。先進事例を参考に、リデュース（発生抑制）、リユース（再利用）、リサイクル（再使用）を進めていく」との答弁でした。
※東京都では、マイボトルへの無料給水への協力店舗を求め、「給水ポイントステッカー」配布の展開も始まりました。まずは、ペットボトルを減らす！マイボトルの携帯を！

本年4月の改選により、佐藤まさたか議員（無所属）、かみまち弓子議員・藤田まさみ議員（立憲民主党）、白石えつ子の4人で
会派「つなごう！立憲ネット」を結成した。

9月議会では、H30年度決算特別委員会一般会計に対して、公正かつ合理的な事務執行、健全な財政運営を評価し賛成した。また、医療的ケア児の保育開始も評価した。

課題としてあげたのは、公民連携について、公正性、公平性の担保のため、モニタリング評価制度を整え、徹底した見える化を。ジョブシェアセンターの意義が市民に理解される努力を。あらゆる人が公共的な価値を生み出す主体。他責から自責へと文化を変え、不断のコミュニケーションを大切に。どんな子も一緒に育つ環境、セーフティネットづくり、保育の質向上に、公立保育園が責任を持つ。不登校の実態要因の分析を丁寧に、多様な選択肢ができるよう取り組んでほしい。

ハテナサロンのお知らせ

輸入小麦に潜む危険

日時：2020年1月19日（日）
10:30～12:30

グリホサートって何？
除草剤から食の安全が脅かされる？

場所：まちなみ緑がわ本町（本町4-1-8）
参加費：300円（資料代）

申し込み：東村山・生活者ネットワーク
TEL&FAX 042-392-7677

募集中

ニュース（年4回）
配布協力者
... 薄謝あり

フリマ定期開催中
毎月第4火曜日11時～15時（雨天中止）
ネット事務所（柴町2-19-3）
西武信用金庫向かい1階たたき部分にて
提供品随時募集